

絵コンテ読解

「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。

それはもう、きつっきにぴったりのお店です。

「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。

それはもう、きつっきにぴったりのお店です。

タイトルを読んだだけで笑いをこらえきれず「フッ」と吹き出す子がいます。

「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。

それはもう、きつっきにぴったりのお店です。

タイトルを読んだだけで笑いをこらえきれずに「ブッ」と吹き出す子がいます。

子どものつばやきに耳をすますと「おいおい、きつっきがバナナうるんかいー」

1 行目では、「こつも言っています」。「でかい店やねえ。さすが、きつっきやねえ」

2 行目では「ぴったりするまやろー」「そりゃ、きつっきやんけ」

さて、この子の頭の中をのぞいてみましょう。

「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。
それはもう、きつっきにぴったりのお店です。

タイトルを読んだだけで笑いをこらえきれず「フッ」と吹き出す子がいます。

子どものつばやきに耳をすますと「おいおい、きつっきがバナナうるんかいー」

1行目では、「こうも言っています」。「でかい店やねえ。さすが、きつっきやねえ」

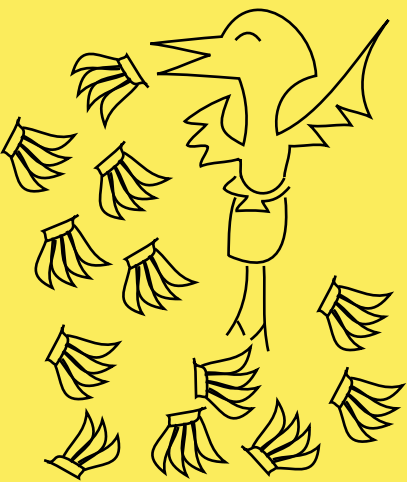
2行目では「ぴったりのすぎやろー」「そりゃ、きつっきやねえ」

さて、この子の頭の中をのぞいてみましょう。

「おいおい、きつっきがバナナうるんかいー」

「でかい店やねえ。さすが、きつっきやねえ」

ハイ、ラッシャイ!



「ぴったりのすぎやろー」「そりゃ、きつっきやねえ」



「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。
それはもう、きつっきにぴったりのお店です。

※もちろん、読み進むに従って、絵は修正・操作（加工）されていきますが、このような明確な視覚イメージの再現（最も分かりやすい、文章を絵図にするという読解確認方法）をしながら、読み進むのが、読解力養成となります。子どもは一度で読解とは何かを体で体得します。ですから、幼児・児童期の早い時期に一度は、ていねいに文章を自分のイメージで絵図化することに時間をかけて取り組む必要があるのです。

「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。

それはもう、きつっきにびったりのお店です。

※文章を絵図化する場合には十分に子どもテンポを重視して十分に時間をかけて描かなければなりません。が、実際に国語の文章を絵図化するのは大量の時間がかかります。、ですから、国語では、全文を描き表す必要はありません。（実は「良質の算数文章問題」で毎回やっています）ただし、読解とはどういうことを、具体的に教える際には非常に効果的な方法ですので、楽しく絵コンテ読解学習を進めていただきたいと思います。

「きつっきの商売」

きつっきが、お店を開きました。

それはもう、きつっきにぴったりのお店です。

※頭の中で再現された視覚イメージを修正・操作（加工）するのは、だれでも超高速でできますので、練習すべき事は「文章を豊かな（オリジナルの）絵図で表現する（描く）こと」です。

「きつぎの商売」

きつつきが、お店を開きました。
それはもう、きつつきにぴったりのお店です。

タイトルを読んだだけで笑いをこらえきれずに「ブツ」と吹き出す子がいます。

子どものつぶやきに耳をすますと「おいおい、きつつきがバナナうるんかいー!」

1行目では、「こうも言っていました。」「でかい店やねえ。さすが、きつつきやねえ」

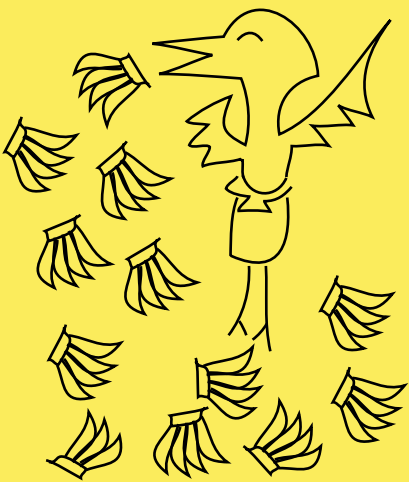
2行目では「ぴったたりすぎやろー!」「そりゃ、つつきすぎやんけ」

さて、この子の頭の中をのぞいてみましょう。

「おいおい、きつつきがバナナうるんかいー!」

「でかい店やねえ。さすが、きつつきやねえ」

ハイ、ラッシャイ!



「ぴったたりすぎやろー!」「そりゃ、つつきすぎやんけ」



※もちろん、読み進むに従って、絵は修正・操作（加工）されていきますが、このような明確な視覚イメージの再現（最も分かりやすい、文章を絵図にするという読解確認方法）をしながら、

読み進むのが、読解力養成となります。子どもは一度で読解とは何かを体で体得します。

ですから、幼児・児童期の早い時期に一度は、ていねいに文章を自分のイメージで絵図化することに時間をかけて取り組む必要があるのです。

※文章を絵図化する場合には十分に子どものテンポを重視して十分に時間をかけて描かなければなりません、実際に国語の文章を絵図化するのは大量の時間がかかります。ですから、国語では、全文を描き表す必要はありません。（実は「良質の算数文章問題」で毎回やっています）

ただし、読解とはどういうことかを、具体的に教える際には非常に効果的な方法ですので、楽しく絵コンテ読解学習を進めていただきたいと思います。

※頭の中で再現された視覚イメージを修正・操作（加工）するのは、だれでも超高速でできますので、練習すべき事は「文章を豊かな（オリジナルの）絵図で表現する（描く）こと」です。

「きつぎの商売」

きつつきが、お店を開きました。
それはもう、きつつきにぴったりのお店です。

タイトルを読んだだけで笑いをこらえきれずに「ブツ」と吹き出す子がいます。

子どものつぶやきに耳をすますと「おいおい、きつつきがバナナうるんかいー」

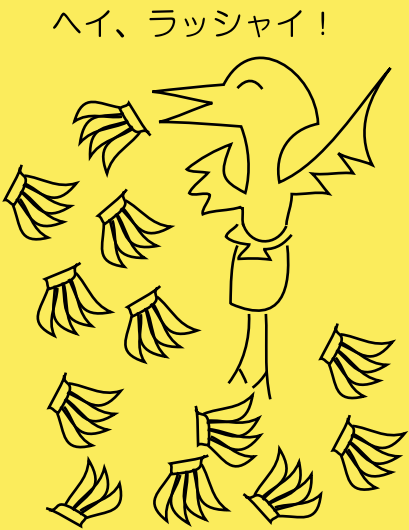
1行目では、「こうも言っていました。」「でかい店やねえ。さすが、きつつきやねえ」

2行目では「ぴったりのすぎやろー！」「そりゃ、つつきすぎやんけ」

さて、この子の頭の中をのぞいてみましょう。

「おいおい、きつつきがバナナうるんかいー」

「でかい店やねえ。さすが、きつつきやねえ」



「ぴったりのすぎやろー」「そりゃ、つつきすぎやんけ」



※もちろん、読み進むに従って、絵は修正・操作（加工）されていきますが、このような明確な視覚イメージの再現（最も分かりやすい、文章を絵図にするという読解確認方法）をしながら、読み進むのが、読解力養成となります。子どもは一度で読解とは何かを体で体得します。

ですから、幼児・児童期の早い時期に一度は、ていねいに文章を自分のイメージで絵図化することに時間をかけて取り組む必要があるのです。

※文章を絵図化する場合には十分に子どものテンポを重視して十分に時間をかけて描かなければなりません。実際に国語の文章を絵図化するのは大量の時間がかかります。ですから、国語では、全文を描き表す必要はありません。（実は「良質の算数文章問題」で毎回やっています）

ただし、読解とはどういうことかを、具体的に教える際には非常に効果的な方法ですので、楽しく絵コンテ読解学習を進めていただきたいと思います。

※頭の中で再現された視覚イメージを修正・操作（加工）するのは、だれでも超高速でできますので、練習すべき事は「文章を豊かな（オリジナルの）絵図で表現する（描く）こと」です。